



介護施設向けAI検知システム構築に関する共同研究を開始

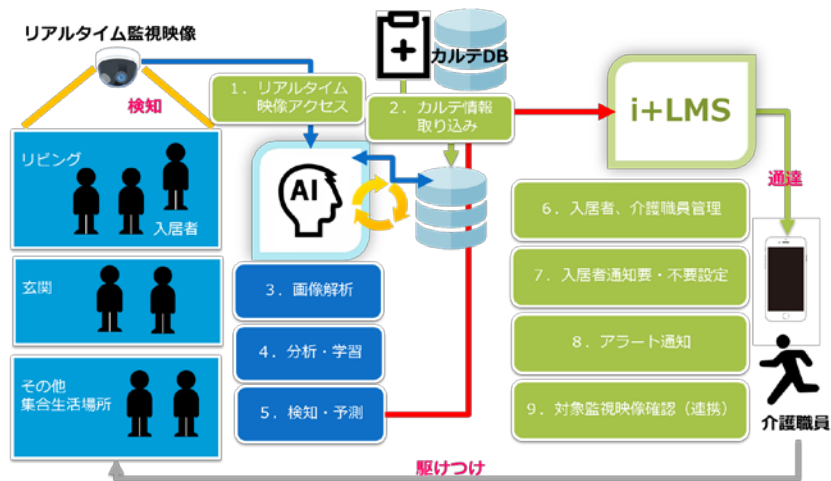
株式会社IGPIビジネスアナリティクス&インテリジェンス(代表取締役CEO:川上登福、以下「BAI」と、アイスタディ株式会社(東京都港区、代表取締役社長:中川博貴、以下「アイスタディ」)、東京大学大学院 工学系研究科技術経営戦略学専攻 松尾豊教授の研究グループ(以下「松尾研究室」)、株式会社Olo(東京都文京区、代表取締役CEO:川合健斗、以下「Olo」)、社会福祉法人善光会(東京都大田区、理事長:梅田茂、以下「善光会」)は、AIを用いた介護施設向け検知システム開発における連携を目的とし、共同研究を開始致します。

1. 本共同研究の目的

本共同研究では、アイスタディが企業向けLMSの開発で培った技術力と、ディープラーニング技術や動画・画像解析などを得意とする松尾研究室、ディープラーニング技術を活用し、世界最高レベルの顔認証をエッジデバイスで実現するOloの知見を組み合わせることで、善光会が展開する複合福祉施設「サンタフェガーデンヒルズ」に入居する入居者の行動をAIによって認識・分析し、転倒事故防止等に寄与できるシステムの開発に向けた共同研究を行います。

具体的には、松尾研究室、Olo、BAIの3者で連携し、介護現場の映像データを活用し、入居者の転倒等の事故やその他の行動をディープラーニング技術等のAI技術を用いて検知する研究・開発を行い、アイスタディがそのAIを活用することで、AI技術により検知された事故や行動等を対象の介護職員のスマートフォンへアラートを通達し、ただちに駆けつけることが可能なシステムを構築致します。これらの共同研究には、介護業界における現状を知り、入居者の行動を細やかに把握している有識者が必要であることから、日本最大級の複合福祉施設を運営する善光会による全面的な実証協力、アドバイスのもと、研究が進められます。

※共同研究におけるスキーム(下図)



介護施設において、入居者一人ひとりの行動をリアルタイムに検知できるシステムを構築することで、介護職員は入居者の転倒、転落、離脱等の早期対応や、入居者同士のトラブルをはじめとするリスク検知が可能となり、介護職員の業務効率化の実現、および入居者の安全性の向上を図れます。

2. 研究背景と概要

入居者が介護施設で日々生活を送る中でも、転倒によるケガにより寝たきり状態となってしまう等、様々な危険が潜んでいると考えます。特に、リビング等の集合生活場所においては、椅子からの立ち上がり時の転倒、車椅子からの転落、入居者同士の喧嘩等のリスクも増加し、介護職員は常に入居者の行動を認識し、事故発生時には迅速な対応が求められます。

一方、4人に1人以上が高齢者という超高齢社会の日本において、介護業界は慢性的な人手不足に悩まされており、介護職員一人あたりの業務負担増加も課題として存在しております。

そのような状況下において、介護職員が入居者一人ひとりの行動に対してスピード感をもった判断、対応を行えるよう、入居者の行動をリアルタイムに検知し、介護職員に対して、異常時に的確に通知する仕組みを提供することが、介護業界における課題解決の一助となると考えます。

以上のような背景を踏まえ、各社・研究室の知見を融合させ、1年間の研究成果として、介護職向けAI検知システムサービスとして提供することを目指します。単なる研究活動に留まらず、研究受託の中で培ったノウハウを活かし、実社会にAI技術が生きるユースケースを積み上げてまいります。

(本件に関するお問い合わせ先)

株式会社IGPIビジネスアナリティクス & インテリジェンス

川上

TEL: 03-4562-1530

e-mail: info@igpi-bai.co.jp